



Kaprekar number

```
fib[1] = fib[2] = 1;
fib[n_] := fib[n] = fib[n-1] + fib[n-2];
Map[fib, Range[1000]]
```

55

$$55^2 = 3025$$

$$30 + 25 = 55$$

Fibonacci number

表紙の話

(サブタイトルの話)

今回のサブタイトルは、「公園に行って数学しよう」。何を言いたいのかわからないかもしれませんが。今回のインタビューの青柳碧人さんも高校を卒業し数学の授業から離れてみて、数学のよさを知った人でした。「科学の甲子園」や「女子中高生夏の学校」では、数学をはじめとする理数大好きの子どもたちが活躍している様子を見ることができました。子どもも学校を離れて、人の繋がりから、数学の良さを再確認したりしています。学校の中の授業だけでなく、もっと外の世界で子どもたちを活躍させるのも面白いかもしれません。そして私たち教員も学校を離れ、外の世界の数学を見に行くことで、自分の教養の幅を広げることができるのではないのでしょうか。表紙のフィボナッチも自然の中で数を見つけた人でした。昔からあるジョークに「数学者は国立公園が好きである。」というのがあります。理由は自分で調べてみてください。

(第 55 号にちなんで)

ようやくきました「55」。言わずと知れたフィボナッチ数です。フィボナッチ数については、先生方も詳しくご存知のことと思いますので、今回は、その数にちなんで日詰明男さんの作ったフィボナッチタワーも作ってみました。流石にフィボナッチ数です。螺旋を描きながら、風が吹くと自然の気持ちいい揺れを演じます。みなさんも作ってみてはいかがでしょうか。「55」は三角数でもあり、四角錐数でもありますが、カプレカ数でもあります。カプレカ数(カプレカ変換とは異なる)は、その数を2乗して、前半の桁と後半の桁を足すともとの数が得られる数です。